

現場の確認(ルカ 10:1-11)

本当に救いの恵みが何かを知る信者は、感謝にあふれるようになります。そして、そのときから救われていない人々に視線が行くようになり、現場に目覚め、救われる以前の自分と同じ姿の人々を現場で見て、自分が遣わされていることを知るようになります。

1. 現場を確認すると正しく祈れるようになる。

現場を正しく確認すると、聖霊の導きに従うようになります。現場はどのような所だと確認するのでしょうか。

- 1) 疲れている現場
- 2) 重荷を負っている現場
- 3) 不可能を知らずにアタック
- 4) 飢え渴いている魂

神様を離れて、悪魔の奴隷で、地獄の運命に捕らわれていることは、何によっても解決できません。

まことの答えへとガイドするように現場に弟子たちが遣わされました。そのとき、狼の中に小羊を遣わすようだとされています。

- 5) サタンの暴れ

サタンの支配している世の中に光の戦士として入るので、当然、サタンが暴れます。

- 6) 福音と伝道者と癒やしが必要

しかし、現場は福音が絶対に必要だと確

認して、人生の方向をこちらに向けるようにしましょう。すべては福音のためであり、自分は生かす者としているのだということを覚えましょう。教会は、赦すことしかありません。

2. 現場を確認すると福音と信者の価値を改めるようになる。

現場に福音が必要で、働き手が少ないと確認できると、主人公となります。

- 1) いのちと死、光と闇、天国と地獄が決まる

- 2) 恵まれた者、選ばれた者、幸いな者
- 3) 理由ある者、必要な者、用いられる者、神殿になった者

いのちと死を分け、光と闇を分け、天国と地獄を分ける福音の価値を知り、現場で、福音と信者の価値を改めると、それまでの理論は輝きを失います。

三位一体の神様が聖霊を通して内に宿る神の神殿であり、神様から見て生きる理由があることが分かります。条件や環境、状況を見て反応する必要はなく、かえってそれが悪いから聖書にあるとおりになると感謝します。

3. 現場を確認すると持続可能なやぐらを建てることを目標にする。

- 1) 霊的戦争、癒しの必要
- 2) 受け入れの運動

- 3) タラッパン運動

- 4) 弟子運動

- 5) 地教会運動

持続可能な神のやぐらを建てることを目標にして、一回の受け入れ運動に終わらず、癒やしが必要なので、持続可能なシステムが求められることに気づきます。そこで、受け入れ運動で与えられた人の中で、持続的にみことば運動ができる人をピックアップして、みことば運動をします。それがタラッパンです。そして、タラッパンの中で、働き手、弟子となる人を見付け、弟子運動をします。現場の確認が必要だという結論が出た人

たちに神様が門を開かれ、弟子中心に礼拝堂の教会ではなく、現場に教会が建ちます。それが地教会運動です。ひとりひとりが住むところがすべて教会に、タラッパンの場と変わることを祈りましょう。

信者にとって現場は、妥協しても逃げてもいけないサタンの12の罠に溺れている宣教地(霊的戦場)であることを覚えて確認しましょう！

キリストを持つ信者自分の価値を改めて、まず関わりある人々、置かれている現場から現場確認をしましょう！

1 部-ルカ 10:1-11 現場の確認

なるほど/福音が絶対必要な現場を確認した時、祈りが正しく修正され、福音と信者の価値を改め、その現場に福音のやぐらを建てる目標が持てる。

ならば/現場を宣教地(霊的戦場)として受け止め、まず自分という現場を確認して福音の価値と御言葉の運動を回復し、関係者、置かれているところから現場確認をして、そこから始めよう！

2 部-マルコ 13:1-8 終末の信仰

なるほど/終末に対する誤解を正して、始まりがあり終わりがある時代としての終末、だからそこに神様の理由(世界福音化)がある歴史としての理解を持って、眠ることなく目を覚ましている信仰が求められる。

ならば/何があっても時代のテーマである伝道と宣教が曖昧になり眠ることなく、目を覚まして伝道者の生活貫けるように覚悟して祈ろう！